

公開用シナリオ グループワーク用教材（地震・津波編）

P.	タイトル	説明概要
2	グループワークの流れ	<p>それでは、グループワークの流れを確認します。</p> <p>本日は、このような順番で意見交換を進めていきます。</p> <p>はじめに、自宅や身の回りの地震や津波のリスクを確認し、その後、地震発生時の防災対応や避難について考えていきます。</p> <p>途中で、意見交換を踏まえてワークシートを見直す時間も設けています。</p> <p>最後には、本日の気づきを整理し、「いま自分にできること」を考えていきます。</p>
3	はじめに	<p>まず、はじめに地震や津波は突然発生します。</p> <p>だからこそ、その場で判断する力と事前の備えが大切です。</p> <p>本日のグループワークでは、自分の置かれた状況をもとに地震・津波災害や取るべき防災対応について考え、その結果を意見交換していただいて、新たな気づきを共有していくことを目的に行います。</p>
4	意見交換① 自宅にある地震のリスクを確認	<p>最初の意見交換では、自己紹介も兼ねて、自宅にある地震のリスクについて共有してみましよう。</p> <p>お手元のワークシートでは「Check1」の部分になります。</p> <p>あまり難しく考えず、気づいたことをそのままお話しください。</p> <p>お一人ずつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お名前（可能であれば所属など） ・自宅でできていた地震への備え ・これから考えてみたいこと <p>を、まとめてご紹介ください。どれも短くて構いません。</p> <p>ほかの方の話を聞いて、「それなら自分にもできそう」と思った点があれば、ぜひ参考にしてみてください。</p> <p>それでは、こちらの方（指をさして、名簿順で、など）から順番にお願いします。</p> <p>全体の時間の目安は5分です。</p> <p>=====</p>

		<p>ありがとうございます。</p> <p>自宅の地震対策は、それぞれの自宅の状況によって、できることや優先順位は異なります。「家具の固定」や「安全スペースの確保」など、できる地震対策から始めていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0f2f7;"> <p>【進行役の方への補足】</p> <p>この項目は、住宅条件などによる個人差が大きいため、深掘りする必要はありません。</p> <p>今後の意見交換がしやすくなるように自己紹介と合わせて、アイスブレイクとして扱うことを想定しています。</p> </div>
5	<p>意見交換②</p> <p>ハザードマップで自宅周辺の地震・津波リスクを確認</p>	<p>それでは、次の意見交換に進みます。</p> <p>テーマは「ハザードマップで自宅周辺の地震・津波のリスクを確認」です。</p> <p>お手元のワークシートでは「Check2」の部分になります。</p> <p>ハザードマップを見て、地震と津波それぞれについて、どの避難場所へ向かうことにしたか、避難経路の途中で気になった場所や注意点を紹介してください。</p> <p>気づいたことを“一つだけ”でも構いません。</p> <p>全体の時間の目安は5～10分です。</p> <p>お一人ずつ、地震と津波を続けてお話してください。</p> <p>それでは始めましょう。</p> <p>=====</p> <p>みなさん、ありがとうございました。</p> <p>同じハザードマップを見ていても、気になった場所や避難の考え方がそれぞれ違っていたと思います。</p> <p>地震の場合は、ブロック塀や看板、ガラス張りの建物、急な崖の近くや橋を渡る場所など、強い揺れによって通れなくなったり、リスクが高まる場所があったりすることにも注意が必要です。</p> <p>また、津波のリスクがある地域では、海や川の近くには近づかず、できるだけ高いところを目指すという考え方が大切になります。</p>

		<p>ハザードマップは、地域の特徴を知り、自分の防災対応を考える手がかりになりますので、あまり馴染みが無かった方はこの機会に見方を理解しておくようにしましょう。</p> <p>では次に進みましょう。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #E1F5FE;"> <p>【進行役の方への補足】</p> <p>津波の影響が想定されない地域で実施する時は、旅行先を海に選んだ場合などを想定し、沿岸部の特定の地域や場所を設定して検討いただく方法もあります。</p> <p>なお、地震や津波の避難場所（指定緊急避難場所）は、災害発生時に身の安全を確保するための一時的な避難先です。災害で自宅に戻れない人が一定期間生活するための施設である避難所（指定避難所）とは異なります。</p> </div>
6	<p>意見交換③</p> <p>緊急地震速報を見聞きしたときの対応</p>	<p>それでは次の意見交換です。</p> <p>テーマは「緊急地震速報を見聞きしたときの対応」です。</p> <p>お手元のワークシートでは「Check4」の部分になります。</p> <p>地震が起きた瞬間を想像してください。そして、自宅にいるときに、緊急地震速報を見聞きした場面を考えましょう。</p> <p>そのとき、自宅のどこにいますか。何をしている最中でしょうか。周りには何がありますか。</p> <p>状況によって、取れる行動は変わります。</p> <p>自分ならどう動こうとするか、ワークシートの Check1 や Check3 で考えた内容も踏まえて、自身の考えを共有してみましょう。</p> <p>全体の時間の目安は5分です。</p> <p>=====</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>みなさんのお話からも分かるように、そのときの場所や状況によって、取ろうとする行動が違っていました。</p>

		<p>次は、揺れが収まった後の場面について考えてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p>【進行役の方への補足】</p> <p>自宅での場面設定は似ていても、間取りや家具配置はそれぞれ異なることから、参加者が思い浮かべている状況には差がありますので、共有にとどめていただいて構いません。</p> <p>もう少し議論を広げたい場合は、 「普段、ご自宅でいちばん長く過ごす場所はどこですか？」 など場面を具体的に設定してみると、状況がより明確になり意見交換がしやすくなるでしょう。</p> <p>また、状況は、時間帯（昼／夜）や平日／休日で変化する場合もあるため、必要に応じて考えてみてください。</p> </div>
7	地震による強い揺れから身を守るためのポイント	<p>ここで、地震による強い揺れから身を守るためのポイントについて、おさらいしましょう。</p> <p>強い揺れから身を守るためには、地震の特徴を理解いただいた上で、緊急地震速報を見聞きした場合や地震の揺れを感じたら、周りの状況に応じ、自身で身の安全を確保することが大切です。</p> <p>緊急地震速報は、発表されてから強い揺れが来るまで、とても短い時間です。このため、「事前に建物の耐震化を行う」、「家具等が移動しないよう固定する」などの対策をとることが、緊急地震速報を有効に活用する上では重要です。</p> <p>また、震源に近い場所では、原理的に緊急地震速報が間に合わず、緊急地震速報の前に強い揺れが来ることもある、ということをおさえておきましょう。</p>
8	意見交換④ 強い揺れが収まった後の行動	<p>それでは次の意見交換です。</p> <p>テーマは「強い揺れが収まった後の行動」です。</p> <p>お手元のワークシートでは「Check5」の部分になります。</p> <p>実際に強い揺れがしばらく続き、ようやく揺れが収まった場面を</p>

想像してください。

そのとき、みなさんはどのような行動をとりますか。

すぐ避難するでしょうか。家族の様子を確認しますか。情報を集めようとしていますか。

実際には、どれも大切に思える行動です。

だからこそ、判断に迷う場面が生まれます。

ここでは、一人ずつ、

- ・津波の危険があるかどうか
- ・自分が最初にとろうと思った行動
- ・そのとき迷いそうな点や注意すべき点

を紹介してください。

他の人の話を聞くと、同じ状況でも判断が異なることに気づくと思います。

その違いを意識しながら、意見交換してみましよう。

それでは始めてください。

全体の時間の目安は5分です。

=====

ありがとうございました。

揺れが収まった直後は、周囲をとりまく状況は様々です。その中でどのような行動をとるか、判断に迷いやすい場面だと思います。

津波のリスクがある地域では、強い揺れを感じた時や、弱くてもゆっくりとした揺れを感じた時には、津波警報を待たず避難が必要になることがあります。こうした点も踏まえて、改めて次のスライドで再確認してみましよう。

【進行役の方への補足】

揺れが収まった後の行動は、誰と一緒にいるか、自分や周囲にケガ人がいるか、時間帯（昼／夜）などによっても大きく変わります。

参加者がそれぞれの状況を思い浮かべやすいよう、必要に応じて場面を設定して意見交換をしてください。

		<p>とる行動が変わり得る要因の例として、次のような視点があります。</p> <p>環境：倒れた家具、停電による暗さ、ガラスの破片が散乱している</p> <p>人：家族が近くにいる／離れている、ケガ人がいる</p> <p>情報：津波の有無が分からない、情報が途絶えている／錯綜している</p> <p>こうした状況の違いを意識することで、参加者それぞれの判断に幅が生まれ、意見交換がより具体的になります。</p>
9	津波から身を守るためのポイント	<p>津波から身を守るためには、まず、津波がすぐに海岸に押し寄せる場合もあることに留意しておきましょう。</p> <p>海岸で、地震による強い揺れや、弱くてもゆっくりした揺れを感じた場合、または、大津波警報や津波警報を見聞きした場合には、直ちに海岸から離れて、できるだけ高い場所に避難することが大切です。</p> <p>津波注意報が発表されたときも、海の中は危険です。直ちに海から上がり、海岸から離れましょう。</p> <p>津波は長時間にわたって続く場合もありますので、大津波警報や津波警報が解除されるまでは、避難を続けるようにしましょう。</p> <p>海の近くに出かける場合には、スマートフォンやラジオなど、情報を受け取ることのできるものを携帯することも忘れないようにしましょう。</p> <p>そして、あらかじめ津波ハザードマップや近くの高台、津波避難ビルなどを確認しておくことも重要です。</p> <p>【進行役の方への補足】</p> <p>合わせて、気象庁が発表する津波警報や津波情報について、学習していただく時間を設けることも効果的です。</p>

		<p>一例として、津波警報は全国の海岸線を66に区分した「津波予報区」単位で発表しており、ご自身のいらっしゃる場所がどの「津波予報区」に対応しているかは平時から確認しておくことが重要です。</p> <p>また、津波情報には、第一波の到達予想の時刻があります。これは、津波予報区の中で最も早く津波の第一波が到達する予想時刻をお知らせするものですが、場所によっては、この時刻よりも数十分、1時間以上遅れて津波が来ることもあります。津波の予測には誤差も含まれますので、場合によってはそれより早く津波が襲ってくることもあります。津波警報発表後も、津波は繰り返し襲ってきて、半日や1日以上継続することもあります。</p> <p>津波のハザードマップの想定は、あくまで想定であることも適宜おさらいしておくといよいでしょう。</p> <p>ハザードマップはある特定の想定災害を設定して作成されていますが、想定と現実の自然現象は完全に一致することはありません。想定よりも大きな津波が来ることもあれば、想定よりも小さな被害に留まることも考えられるということ、覚えておきましょう。</p>
10	意見交換を踏まえてワークシートを点検・修正	<p>それでは、これまでの意見交換をふまえて、自分の作成したワークシートを点検してみる時間を設けます。</p> <p>その際、修正が必要なら適宜追記や修正もしてみてください。</p> <p>なお、点検・修正作業のあと、本日気付いたことや勉強になったこと、今あなたができることを発表してもらう時間を設けます。何を発表しようかも意識しながら、作業してみてください。</p> <p>では、これまでの意見交換を踏まえて、実際にワークシートを見直してみましよう。</p> <p>本日の話し合いの中で、「新しく気づいたこと」「考えが変わった</p>

		<p>こと」「追加しておきたいこと」があれば、自由に書き加えてください。</p> <p>修正といっても、自分の意見を消して、他の考えに直す必要はありません。</p> <p>今の自分の考えを残しておくことも大切にしましょう。</p> <p>少し時間を取りますので、各自で整理してみてください。</p> <p>全体の時間の目安は5分です。</p>
<p>11</p>	<p>意見交換⑤ いま、あなたができること</p>	<p>それでは最後の意見交換です。</p> <p>テーマは「いま、あなたができること」です。</p> <p>お手元のワークシートでは「Check7」の部分になります。</p> <p>ここまで、自宅や身の回りの地震や津波のリスク、防災対応について考え、さまざまな意見交換を行ってきました。</p> <p>地震や津波は、いつ起こるか分かりません。</p> <p>だからこそ、本日の学びを踏まえて、いま自分にできる備えを一つ考えてみましょう。</p> <p>大きなことでなくても構いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族と避難場所を確認する ・家具の配置を見直す ・情報の入手方法を確認する ・常に最新の情報を確実に入手するために多様な情報手段を確保しておく <p>など、具体的に行動できそうなことを、一人一言ずつ共有してください。</p> <p>全体の時間の目安は5～10分間です。それでは始めましょう。</p> <p>=====</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>実際の地震や津波の場面では、情報が十分でない中で判断を求められることもあります。</p> <p>だからこそ、最終的に自分の命を守る判断をするのは自分自身で</p>

公開用シナリオ グループワーク用教材（地震・津波編）

		<p>す。</p> <p>本日考えた「できること」を、ぜひ一つでも実行に移していただければと思います。</p>
12	おわりに	<p>本日のグループワークでは、地震や津波が起きたときの行動について、それぞれの状況をもとに考え、意見交換していただきました。</p> <p>実際の災害の場面では、誰かが判断してくれるわけではなく、最終的に行動を決めるのは自分自身です。</p> <p>本日見つけた「できること」を、ぜひ一つでも日常の備えにつなげていただければと思います。</p> <p>そして、本日の学びをより広げ、さらに自身の周囲の方とも共有していただけたら嬉しいです。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>